

2020年8月難民キャンプ改善プロジェクトフェーズ2(PALCIP2) 活動開始

フェーズ2の目的と背景

パレスチナ自治区のヨルダン川西岸地区では、22万人以上の難民が、19カ所*の難民キャンプで生活しています。多くの難民キャンプは65年以上前からあり、施設やインフラの老朽化に伴い、生活環境の悪化が見られます。JICAは、パレスチナ解放機構(PLO)難民問題局(DoRA)をパートナーに、「難民キャンプ改善プロジェクトフェーズ1」(2016-2019)を実施し、DoRAの能力向上、各キャンプにおける住民参加と社会包摂を重視した「キャンプ改善計画」(CIP)策定と実施の支援を行いました。フェーズ2(2020-2024)では、新たに12キャンプを対象とし同様の活動を実施します。(*国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)公認キャンプに限る)



今では日常となったオンライン会議

現地でも、集会制限、都市間移動制限が課され、フェーズ1のようにキャンプ住民と対面での会議や議論ができず、各活動に時間を要しています。そのため、より今までに近い形で活動が実施できるよう、PCやプロジェクター等の遠隔会議用機材を貸与し、オンライン機材の使い方研修等も実施して円滑な活動のための工夫をしています。

COVID-19変異株の流行やイスラエル-パレスチナ情勢悪化など、予測外の出来事が次々と発生し、現地側も日本側も活動予定の変更を余儀なくされる日々が続いていますが、今しばらくは、フェーズ1の経験と築き上げた信頼関係を活かしつつ、柔軟に活動を進めていきます。

活動開始とCOVID-19の壁

フェーズ1活動終了時から1年近く空いたため、まずDoRAに対しフェーズ1内容の振り返りや事後レビューを行い、フェーズ2活動に向けた課題を抽出し、改善策を議論してきました。加えて、DoRA主導のキャンプ改善活動を目指し、資金調達の一可能性として、DoRAに対するクラウドファンディング研修を行いました。

しかし、全世界的なCOVID-19の流行により、未だに日本人専門家の現地入りが叶わず、新規キャンプでの活動開始が困難なため、現在はフェーズ1で策定したアクバットジャバル(Aqbat Jabar (AJ))、ジャラゾン(Jalazone (JZ))、オールドアスカール(Old Askar (OA))難民キャンプのCIP更新作業を遠隔で行っています。



住民の声が詰まった意見箱を確認する

PALCIP2 News Letter #1 (May 2021)

Participation and Inclusiveness for improvement of Palestinian Refugee Camps

Contact: palcip2123@gmail.com